

たころに、イギリスへの短期の語学留学に向かった。向かった先は大学街として知られるオックスフォード。そこから『嵐が丘』が書かれて物語の舞台ともなったヨークシャー地方のハワース村までは、もう遠くはなかった。

人は現実の世界だけに生きてはいない。その思いは長い時間をかけて私のなかに深く育っていった。天上界と地上界。この二つの世界が心のなかに生まれたとき『パインとワインのもの』がたり』が出来る。そして私はこのささやかな一作品の作者となっていたのだから、きつと、ずっとどこかで繋がっていたのだと思うのだ。あの精神的で神秘的な『嵐が丘』の世界と。

**堀越照代** ④ 私の好きな本『窓際  
のトットちゃん』について書く。  
随分久しぶりに本棚からこの本  
を取り出した。著者は黒柳徹子。表  
紙にいわざわざひろの描いた帽子  
を被った女の子が座っている。

私にとつて「子育てのバイブル」

である。九州・宮崎で生まれ育った私が、関東・千葉県の人と結婚し、子供二人を授かつての新しい生活は孤軍奮闘だった。

男は仕事、女は家庭を支え夫に尽くすことが、当たり前であった時代、それに慣れて結婚した私だが、育った環境の違いに戸惑い、まして子育ては未知の世界だった。親も姉妹も近くにはおらず、親しく話す友人もいなかった。

それを助けてくれたのは本だった。育児書は『スポック博士の育児書』を限なく読み、有吉佐和子の小説『複合汚染』や『恍惚の人』で社会問題に触れ、子供が遊ぶ傍らで読書にふけた。

トットちゃんからは、沢山の大切な事を学んだ。まず食事は「海のもの、山のもの」を食べる事、人は「その人の存在自体を受け止める」事などなど。

私が、この本から学んだ食事に  
関する事は、今の自分と家族の健康  
に繋がっている。「海のもの」であ  
る魚や海藻類と、「山のもの」の肉

や野菜で作る料理は、栄養バランスが良く、食品数も多くなるため、健康な体作りに良いのである。

私は本を読んで子育てをしていたつもりが、実は自分育てをして  
いたのだ。今のところ成人病の診  
断は受けていない。四十年前に出  
会った『窓ぎわのトットちゃん』  
に、心より感謝している。

**芳賀尚子**♪ 私の好きな曲は、シュ  
ベルトの「アヴェ・マリア」です。  
美しい旋律でもありますが、歌詞  
がとても印象的で、聴く度に涙し  
ます。

この歌詞はスコットランドの文  
学者のウォルター・スコットの叙  
事詩「湖上の美人」から採用したも  
のだそうです。父親の罪を赦しても  
らうべく、聖母マリア像に祈る乙女  
の願いが歌となっています。

この曲を初めて聴いたのがいつ  
であったかは、わかりませんが、理  
不尽な生活の中、度々どこからと  
もなく流れてくる曲でした。

「アヴェ・マリア」の歌詞の中  
の「たとえ人々が無慈悲であつて

も」という言葉と「地や天の悪魔達  
はあなたの目の優しさに追い払  
われ、我らのところに住むことが  
できません」という歌詞に共感し  
て、「何度聴いてもそこに涙してし  
まいます。

私の好きな曲でもあり、大切な  
曲でもあります。特に、誠実に生き  
ているにもかわからず、運命に翻  
弄され、助けてくれる人が誰もい  
ない人に、この曲をおすすめ致し  
ます。

**美帆シボ**♪ スペインの盲目の作  
曲家、ホアキン・ロドリゴの名  
を知らない人でも、一九三九年に  
作曲された「アランフェス協奏  
曲」のアダージョは耳にしたこと  
があるだろう。

一九六七年、パリでこの曲を  
「ロックの物静かな父」と呼ばれ  
たフランスの歌手リシャール・  
アントニーがシャンソンにして歌  
い、世界的に大ヒットさせた。

二〇一八年にパリの同胞と行う  
コンサートで、私がこのシャンソン  
を歌いたいと思った理由は曲の美